



NEWS

2009 No.214

1月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

平成21年 理事長年頭所感

基本に戻り、リサイクル部品業務を再強化 厳しい市場環境下で皆様のお役に立てる NGPを目指します

明けましておめでとうございます。

平成21年の新春を迎え、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、前半は原油価格の歴史的な高騰、後半は国際金融市場の混乱にともなう世界的な経済の大減速と、これまでに経験したことがないほど、国内・外の経済が混乱した1年でした。ご承知のように、その影響は鉄スクラップ価格にも及び、7月に付けた最高値が瞬間に急低下し、10月末には最高値の10分の1以下にまで下落いたしました。その影響で使用済自動車の買い取り価格も下げざるを得ず、お取引先の皆様にはご迷惑をかけているところでもあります。

一方、自動車産業に目を転じますと、国内の新車販売水準は大きく後退し、さらに年後半の景気後退で厳しさが一段と強まりました。昨年は登録自動車販売321万2千台、軽自動車186万9千台、合計で前年比5.1%減の508万2千台という市場は昭和55年以来の低い水準で、また登録車だけで見ますと、昭和46、47年の市場規模に逆戻りしたことになります。そして市場の厳しさは今年も変わらぬ状況と見られ、昨年末に日本自動車工業会が予測した今年の販売台数は、販売実績見込み比4.9%ダウンの486万台としております。

経済情勢は今後も予断を許さない厳しい状況が続くものと見られますが、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は、こうしたピンチをチャンスととらえ、かつお客様の力となれるよう業務の原点に戻り自動車リサイクル部品の販売に力を入れて取り組んでまいり所存です。リサイクル部品の品質そのものと、同時にスピーディーな供給など

サービスの質を高めることで、リサイクル部品の販売を通じて皆様のお役に立ちたいと考えております。NGP創設25周年を迎える平成22年を当面の目標にNGP協同組合員一同力を合わせて取り組みます。

自動車リサイクル部品の利用拡大は、CO₂排出削減につながります。この効用を広く自動車ユーザーの方々に知ってもらうため、昨年12月に東京ビッグサイトで開催された国内最大の環境展「エコプロダクツ2008」に単独出展し、PR活動も努めてきました。NGP協同組合の単独出展は3年連続で、今年も引き続きリサイクル部品の市場喚起に努めてまいります。

CO₂の削減に関しましては、日本自動車リサイクル部品販売団体協議会とともにグリーンポイントクラブを作り、リサイクル部品利用に伴うCO₂削減効果の定量化を実現しています。今年3月にはさらに一步踏み込み、整備事業者の皆様に対してリサイクル部品を利用することで、毎月どのくらいのCO₂排出削減ができたのか、その数値を提供できる仕組みを作っております。リサイクル部品の販売とともに、整備事業者の皆様にも環境整備にともなう新たなビジネスチャンスを提供するものと考えております。

現在、自動車リサイクル法の見直し作業が進んでいます。当業界にとっては今年半ば以降、許可の更新が始まりますが、途切れることなく使用済自動車の適正処理を進めるため、NGP協同組合員一同、円滑に許可更新を進めて行きます。同時に、法の見直しの中で、整備事業者始めお取引先の皆様の負担軽減につながる法そのものの改正点、運用面での改善点など、積極的に提案していく



NGP日本自動車リサイクル事業協同組合
理事長 大橋岳彦

ことも検討しております。

最後になりますが、NGP協同組合は昨年12月訪中団を派遣し、中国の北西にある寧夏回族自治区の自動車リサイクル事業の発展に協力することで自治区政府、現地企業と合意し覚書に調印しました。中国の自動車産業は発展途中にあり、自動車リサイクルが本格化するのとは今後のこととなりますが、使用済自動車解体技術のノウハウや人材育成などを通じて、中国国内における使用済自動車の適正処理態勢確立を手助けします。こうした取り組みを通じて国際社会へと視野を広げ、皆様に役立つ情報発信につなげてまいります。

今後も関係各位のご指導、ご鞭撻を切にお願いするとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、新年の挨拶といたします。

中国・自動車リサイクル事業の発展協力で覚書調印

寧夏回族自治区政府の関連企業に ノウハウ提供と人材育成サポート 中国支援で海外展開の第一歩を踏み出す



NGP 協同組合は、中国寧夏回族自治区における自動車リサイクル事業の発展に協力するため、現地の自動車リサイクル事業者と覚書を交わし、調印しました。このため12月6～9日にかけて大橋岳彦理事長の以下の訪中団を派遣、12月8日に寧夏回族自治区銀川市の自治区政府庁舎で調印式を行いました。



協力関係の覚書に調印、対中協力の第一歩を踏み出した

今回の覚書調印は、NGP協同組合による対中国協力の第一歩として位置づけられるものです。

調印した相手先は、自治区政府が出資する寧夏回族自治区供銷社と民間の寧夏供銷社再生資源有限公司です。覚書の内容は、まず中国両社が計画する「自動車部品再製造企業」(リビルト事業)の建設に際し、自動車リサイクル技術、部品再製造技術、工場設備の設計に関してノウハウを提供し、工場建設に協力します。また、この工場に従事する管理者、技術者の育成に協力します。これらを通じて寧夏回族自治区を中心とする自動車リサイクル事業の発展のために協力することを確認しています。

NGP協同組合は、中国国際交流協会の

仲介で、寧夏回族自治区における自動車リサイクル事業の現状と課題、将来の発展構想について、過去3度にわたる現地調査を行いました。08年5月には寧夏側の自動車リサイクル訪日調査団を受け入れ、交流してきました。こられの積み重ねの結果、今回の協力に関する覚書調印を行ったものです。

今回の訪中団には、中国国際交流協会との橋渡しをしてくれたNPO世界の田中理事長、NGP協同組合から大橋理事長、青木勝幸会長、上松倉人相談役、宮地康弘専務理事が参加、また過去の中国調査に協力してきた共仲商會・佐藤幸雄社長、しのぶや・小林信夫会長、多田自動車商會・多田幸四郎会長が自主的に参加してもらいました。

寧夏回族自治区政府も自動車リサイクル産業の発展に期待

寧夏回族自治区は、北京から約1000km西方、中国北西部に位置し、内蒙古の南と境を接しています。回族(フェ族)、すなわち回教徒の自治区で、今回、訪問した銀川市は、およそ800年前にチンギス・ハーンに攻め滅ぼされた王国「西夏」の首都があったところです。石炭資源が豊富で、中国北西部における経済発展の中心地となることが期待されています。

寧夏自治区政府関係者の説明では、現在、寧夏を中心にした500km圏内で自動車保有

は210万台ほどで、使用済み自動車発生量も年間5～7万台に過ぎませんが、中国自動車産業の発展とともに急激に保有台数は伸び、2022年には800万台の規模になると見込まれるそうです。自治政府は保有の伸びとともに自動車リサイクル産業の育成強化に強い関心を持っており、今後、中国政府の認可を得てモデル事業に取り組み、エンジンリビルトや中古部品の製造・販売などの事業化を進めるなどとした意向を持っています。

NGP訪中団を派遣



外気温はマイナス。熱烈歓迎で解体工場の人たちが迎えてくれた



寧夏供銷社再生資源有限公司の張順琪理事長らと現状について情報交換した



自動車リサイクル教育に関心を持つ北京市交通学校を視察



中国再資源回収利用協会を訪問し、リサイクル法の関連情報を収集



李北海・中国国際交流協会副会長(写真中央)ら中国共産党の幹部を交えて北京・釣魚台で会食、交歓した

エコプロダクツ2008に出展

自動車リサイクル部品でCO₂削減を呼びかけ 今年もNGPのエコバックは子供たちに大人気



自動車リサイクル紙芝居にレインボー「マーチ」リムジンと盛りだくさんのブースを展開

昨年12月11～13日に東京・有明の東京ビッグサイトで開かれた国内最大の環境展示会「エコプロダクツ2008」に単独出展し、自動車リサイクル部品の利用がCO₂削減につながることをエンドユーザーに訴えました。エコプロダクツは今年が10回目の記念開催になります。1999年の第1回開催は4万7500人ほどの来場者に過ぎなかったそうですが、年々拡大し、今では18万人近くが訪れる環境イベントになっています。NGPの出展は連続3回目となりますが、広くエンドユーザーに自動車リサイクル部品を知ってもらうため、ブースも



子供にも大人にも大うけだったリサイクル紙芝居

年々拡大してPRに努めています。

特に学校がある木、金曜日は総合学習授業などで、幼稚園児から小学生、中学・高校生までがたくさん会場を訪れます。こうした子供たちにリサイクル部品を知ってもらうため、今回はパンフレットを一新、親しみやすい表紙にして「くるマック」のエコバックに入れて配りました。昨年より5千セット多い、2万セットを用意しましたが、エコバックは人気で、3日間ですべてを配りきりました。

また、ブースでは紙芝居を行い、自動車リサイクルとリサイクル部品について子供たちが

分かりやすいようにと、PR方法にも工夫を凝らしました。正解者にマグネットクリップを進呈する自動車リ

サイクルのクイズも好評で、解答のヒントを探してブースを一周している子供たちの姿を数多く見かけました。

加えて、関西支部・多田自動車商会の協力で、同社がリサイクル部品を使って製作した多彩な「マーチ」リムジンを展示しました。これを背景に記念写真を撮る女子中学生もいるほどで、NGPのブースでいろいろと楽しんでもらえたようです。今回の出展を通じて、エンドユーザーのさまざまな層に自動車リサイクルとリサイクル部品についての認識を深めてもらうことができたと考えています。



肝心要のリサイクル部品もしっかりと告知、単独出展で自動車リサイクルを啓もうした

エコプロダクツ2008ピックアップ

10回目の記念開催となった今回、積極的に自社の環境対策を会場でPRする大手企業の姿が目立ちました。

テーマはカーボンオフセット、CO₂削減対策が中心です。未来の自動車の姿は、電気自動車の位置付けが高まるのかもしれませんが。



新型高性能電「SCiB」をPR。東芝

東芝のブースでは新型のリチウムイオン電池をPR。負極の素材を変えることで発熱を抑え、長寿命、充電速度のアップなど高性能化した。宅配ピザの配送バイクをモーター駆動にして展示、今年、米国でこの電池を搭載した電動アシスト自転車が発売されるそう。



VICSによる交通管理もCO₂削減に効果

VICSを利用して交通情報を元に上手に走行すれば、時間も短縮できる。いわゆるTDM(交通需要マネジメント)の一環での効率化をPR。ガソリン消費で10%、走行時間で20%だそう。車単体の燃費性能向上分に上乗せしてCO₂排出量の削減を達成できる。



イタリア発の電気自動車「ジラソーレ」

オートイブイジャパンがイタリア・スタートラブ社と共同開発した電気自動車「ジラソーレ」。100Vの家庭用電源で充電し、急速充電への対応はオプション。価格は約260万円だが、77万円の公的補助が受けられる。最高時速は65kmまで、首都高なら走行可能。



今回も目立った同和エコシステム

金属リサイクル大手のDOWAエコシステムは、今年も賑やかにレアメタルリサイクルをPR。携帯電話その他の都市鉱山はレアメタルの宝庫、これを数えると日本が蓄積した資源は莫大な量になる。もちろん使用済み自動車にもさまざまなレアメタルが眠っている。

NGP 今月のCO₂削減量

NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO₂の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

NGP平成20年11月: **6,688,549kg** (全12団体計: **11,899,656kg**)

1月からの累計: **77,226,593kg** (全12団体計: **146,344,642kg**)



第2回生産 STEP UP 研修会開催

実践的知識を学び、部品生産の技能をアップ

第2回NGP生産STEP UP研修会が12月1～3日の期間で静岡県裾野市のあいおい保険自動車研究所東富士研修センターで開催されました。同研修会は、外板パネル部品生産に不可欠な板金の基本知識やエンジン、ミッションなどの機能部品に関する構造知識を学ぶもので、日常業務に役立つ実践的な知識を学び部品生産のスキルアップを図ることを目的にしています。現物、模型を



具体的に理解でき、通常の講義も集中できる

使用し、理解しやすい内容になっています。

榎並商会の渡辺誠さんは、わかっていたつもりでのブレーキの構造について、「ぜんぜん違う働きをしていた」と感心しています。ABS ブレーキの実車体験で「マスターバックの負圧の配管を外してブレーキを踏んでみると、ぜんぜん止まらなかった」と驚いたそうです。トヨタエコパーツ岐阜の長瀬誠さんは、「整備専門学校を出ているのでわかっていなければならないことが多かったが、日常の業務ではおろそかにしていた。外装品に関しても今までの固定観念で見ずに研修で教わったことを活かしてより良い商品作りを進めたい」と話しています。

実践的な知識は部品生産だけでなく販売



実践のレベルアップに直結する現物主義の講義が中心

にも不可欠です。津田鋼業の佐々木健次さんは、改めて部品が複雑で精密に作られていることに触れ、「生産スタッフだけでなく他の部署のスタッフの方にも参加してもらい、スキルアップにつなげてほしい」と感想を述べていました。

第3回ハイブリッドカーセミナー開催、EVの基本知識を学ぶ

第3回ハイブリッドカーセミナーが12月4、5日に静岡県裾野市のあいおい保険自動車研究所東富士研修センターで開催されました。今後さらに保有が伸びると見られるハイブリッドカーの取り扱いについてその構造と基本知識を習得するセミナーで、昨年度からNGP協同組合は単独でセミナーを実施しています。

カーパーツコンドウの高木忠博さんは電気

の取り扱いの注意点とともに「ハイブリッドカーは、走る、止まるの原理が今までの車とはまったく違った原理であることを学び、なぜ燃費が良いのかもよくわかった」そうです。榎並商会の佐藤竜一さんも、ハイブリッドカーの技術に感心するとともに、「高電圧バッテリーでは、大きな車の最大値は650V。一般から見たらかなり高い電圧をバッテリーが持つため、



新しいメカニズムに参加者は興味津々

脱着では感電防止措置を実施したり、絶縁手袋をしたりすることがよくわかった」とし、ハイブリッドカー取り扱いの知識を深めました。

第4回「ベース車を当てようクイズ」正解&当選者発表!!



協力：日本自動車大学の皆さん

写真のスポーティー車のベースカーは？

正解は **マツダ RX-7** でした。



プレゼント
当選者発表!!

たくさんのご応募ありがとうございました!

- | | | |
|------------------|----------|--------|
| QUOカード1万円分 (1名様) | ★大阪府東大阪市 | 筆本雅章さん |
| QUOカード5千円分 (3名様) | ★東京都狛江市 | 吉田実さん |
| | ★鳥取県鳥取市 | 岸下克己さん |
| | ★長野県長野市 | 宮尾文雄さん |

※当選された方には、(株)NGPよりプレゼントをお送りいたします。商品の発送にはお時間がかかる場合もございます。あらかじめご了承ください。

訃報

12月6日、株式会社テラダパーツ(愛知県刈谷市)寺田友春(てらだ・ともはる)取締役会長のご母堂・寺田ミツエ(てらだ・みつえ)様が逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

(株)NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201